

3	2
SDGs実現に向けて 日本鉱業協会における カーボンニュートラル 社会に向けての活動	カパーロマン 世代を超えて受け継がれる 銅鉱山の物語
6・7	4・5
カパーテクノロジーズ 私たちの作る小さな 真鍮製菌車が世の中を効率良く、 快適に動かす大きな力に	ルポルターージュ 単一自熔炉として世界最大級の 電気銅生産量！ 銅の町 住友金属鉱山の東予工場
11・10	8・9
カパーワールド1 平和への思いを込めて 銅製折り鶴	カパーテクノロジーズ2 万が一の危険から静かに 世界中の人々を守る「銅芯材 使った「サイレントヒーロー」
15・14	13・12
銅センターニュース & トピックス	カパーワールド2 国内最大の円墳・ 奈良富雄丸山古墳で国宝級の 羅龍文盾形銅鏡発見！

# 世代を超えて受け継がれる 銅鉱山の物語

一般社団法人 日本銅センター 会長  
日本鉱業協会 会長  
住友金属鉱山株式会社 代表取締役社長



野崎 明

住友の事業は1590年(天正18年)に京都で始まった銅製錬であり、その事業を今日に引き継いでいるのが住友金属鉱山株式会社です。1691年(元禄4年)に開坑した愛媛県新居浜市の別子銅山も当社が引き継いだ鉱山でした。今、東予工場であかがねを吹く自溶炉の火は、先代の四阪島にあった製錬所から引き継がれた火であるという記録を見ることができます。恐らく四阪島の火もそれ以前の製錬所から代々受け継がれたものなのかもしれません。

私の会社人生における銅事業との関係は上流の鉱山事業が中心でした。1990年1月に、米国アリゾナ州のモレンシー銅鉱山に赴任、2年余り勤務しました。当時でも操業1000年にならんとする北米有数の露天掘り鉱山でしたが、その後まったく衰えることなく、今日でも世界有数の規模と資源量を誇っています。今年の5月にGW期間を利用して現地を視察しました。31年経ったモレンシーは、より大きく、その将来性もさらに有望になっています。この鉱山の権益獲得を意思決定した諸先輩方の先見の明に、改めて敬意と感謝の念を抱きました。

2012年の5月から約1年間、当時チリで開発が始まったばかりのシエラゴダ銅鉱山の進捗管理業務に携わりました。それまでに関与したニッケル開発事業とは比較にならない大きな開発規模に圧倒されながらも、立ち上がったばかりのプロジェクトをなんとか円滑に進めようと、情報収集・分析のために何回も現地を往復しました。工事費の増大、工期の遅れ、さらにはマジョリテイオーナーが買収されるなど課題の多いプロジェクトでした。最終的に立ち上がりましたが、大型プロジェクトの難しさを痛感しました。学んだことも多い案件でしたが、後に社長としてこの鉱山の権益売却を意思決定しました。

社長に就任した2018年の暮れには、カナダのテックリソシズ社が保有する、ケブラダ・ブランカ銅鉱山(チリ)フェーズ2プロジェクトのパートナーシップに関する直接交渉に、バンクーバーへ赴きました。なんとか参画権を勝ち取り、プロジェクトのキックオフのために二泊五日でチリの現地へ。現在、開発工事は終盤に差し掛かっており、既に試験操業レベルながら銅精鉱も生産されています。周辺探鉱で新たな資源も見えられており、事業の拡大、鉱山寿命の延長を期待しています。モレンシーのような世代を超えて受け継がれる優良な資産に成長してくれることを願っています。

製錬所で生産される銅製品は規格も揃っていますが、上流の鉱山は様々なプロフィールを持ち、産出される精鉱もその個性はバラバラです。私たちが日々使っている銅製品の由来には、長い物語があるように思えてなりません。



モレンシー銅鉱山



別子銅山「歡喜坑」